
GLM がシニア世代向けモビリティの”走るコンセプトカー”を発表 “乗りたくなるデザイン”で移動を楽しく

電気自動車の開発を行う GLM 株式会社(京都市伏見区)は、”自動車から乗り換えたいくなるモビリティ”をコンセプトに開発し、2020年10月にデザインコンセプトを発表したシニア世代向けモビリティの自走可能な”走るコンセプトカー”を完成させ、GLM 本社兼テクニカルセンター(京都市伏見区)での展示を開始しました。



少子高齢化が進む昨今、高齢運転者による交通事故が社会問題となっており、政府でも高齢により運転が不安な人に対し、運転免許証の自主返納を推奨しています。一方で、公共交通機関の整っていない地方で運転免許証を自主返納すると、移動手段を失うことになり、生活に支障が出てしまいます。

代替手段としてシニアカーが挙げられますが、従来のシニアカーは「お年寄りのための乗り物」としてみられがちでデザインが多く、いつまでも活発で若々しく生きていきたいと考えるシニア世代が増加する現代社会の中で、受け入れられづらいものになってしまっています。



そこで当社は、「従来のシニアカーにはデザイン性に課題がある」と考え、「“お年寄りのための乗り物”というイメージを覆そう」「誰もが“これなら乗ってみたい”と思うデザイン性の高いシニアカーを創ろう」という想いで、シニア世代向けモビリティの開発に着手しました。

優しい形の一つである球体形のデザインを最大の特徴とし、乗り手であるシニア世代への優しさ、歩道で共存する歩行者への優しさ、活発で若々しく生きていたいという気持ちをデザイン性で表現したデザインコンセプトを2020年10月に発表しました。



今回、動力機構やステアリング機構を搭載するにあたり、最大の特徴である球体形のデザインを変更することなく骨格部に改良を加え、自走可能な”走るコンセプトカー”を完成させました。※私有地のみ走行可能





高齢運転者による交通事故が後を絶たない昨今、運転免許証の自主返納を行う動きが活発ではありますが、その件数に対する「ハンドル型電動車いす」の出荷台数は少なく、10%にも満たない件数であり、まだまだ普及していません。

*運転免許証自主返納件数に対するハンドル型車いす出荷台数とその割合

	70歳以上の運転者による 運転免許証自主返納件数(A)	ハンドル型電動車いす 出荷台数(B)	割合 ((B/A)*100)
令和2年	469,477 件	15,307 台	3.26%
令和3年	443,815 件	14,896 台	3.36%
令和4年	394,576 件	14,064 台	3.56%
令和5年	262,394 件	15,543 台	5.92%

出典 警察庁, 電動車いす安全普及協会

当社では、運転免許証の自主返納後の移動の楽しさを、多くのシニア世代の方々に提供することが、高齢運転者による悲惨な交通事故を減らすことに繋がると考えています。悲惨な交通事故を減らすべく、当社はこのシニア世代向けモビリティの市販化に向け、さらなる改良・開発を行ってまいります。

GLM 会社概要

社名	GLM 株式会社	設立	2010年4月1日
代表	代表取締役 宮下 祐一		
業種	自動車開発	連絡先	075-681-5511 (代表)
本社	京都府京都市伏見区竹田向代町 74 番地 3		

報道各位からの問い合わせ先

GLM 株式会社 岸野

tel.075-681-5511 fax.075-681-5222 e-mail: yusaku.kishino@glm.jp

〒612-8418 京都府京都市伏見区竹田向代町 74 番地 3